

前進継続幸せ町づくり



第9代幸田町長 成瀬 昂志

私は、先の町長選挙におきまして、無投票で当選をさせていただきました。身に余る光栄なことであり、町民の皆さまの声を伺いする中で、改めて政治に携わる者の使命とその責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。

私は、昭和31年に、ここ幸田町に生まれ、幸田町で育ちました。その後、町職員として、また4月に逝去されました前大須賀町長の元で副町長として、行政の一端を担わせていただきました。これから、愛する町「幸田町」の力強い明日を創り上げていきたいという決意のもと、幸田町政を担当いたします。

現在、日本の総人口が減少しているのに対し、幸田町の人口は4万人を超え増加傾向にありますが、財政状況においては、福祉医療などの社会保障関係費の増大や公共施設の大規模改修などが見込まれており、しっかりと将来を見据えた、歳入における安定財源の確保をしていかなければなりません。

こうした厳しい町財政の中ではありますが、町の基本は人です。防災も、暮らしも、産業も未来も、そして町政も、まずは人から始まり、人こそが将来へとつ

ながる大切な財産です。コミュニティ活動の推進、人材の育成、開かれた町政など、まずは人に関わるソフト面、文化面の充実を進める上で、次のことを重点に取り組んでまいりたいと考えます。

安全安心な町

近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震を始めとした大規模災害に備えるため、これまで災害時応援協定を結んでまいりましたが、それらの協定市町との連携をさらに強化するとともに、発災時に備え、「人・物・情報など」の災害時に必要となる資源の確保に努めてまいります。

さらに町民の皆さまが、防災について日常的に意識して習慣化、継続化していただけるように消防本部を24時間テラス化し、多くの人が防災知識の習得のために集い、交流していただける場所になるようにいたします。

火災や災害時に大きな力を発揮する消防団に対して、町長始め、消防団員OBとの意見交換などを積極的に行い、消防団活動の支援を充実してまいります。

治安維持の観点から、相見駅前交番の設置推進など、さらなる安全安心なまちづくりに努めてまいります。

AEDのコンビニ設置とともに救命講習を受ける機会を幅広く設け、緊急時だけでなく、日常生活における安全安心な環境づくりも努めてまいります。



健康に暮らせる町

町民の誰もがイキイキと健康に暮らせる幸田町にしてまいりたいということであります。そのため、町民の健康を増進していく事業を推進していくことはもちろんですが、障がい者や高齢者だけでなく、ご家庭で毎日の介護などで疲れている人に目を向けたフォローを厚くし、福祉医療制度の維持、地域の健康支援に結びつけるヘルスケア見守りサービスの支援の充実を図ります。

今後、少子高齢化の波が加速する中、高齢者が社会の支え手にもなり、かつ健康で楽しく暮らせるように、高齢者が活躍できる舞台の創出および高齢者の居場所づくりのために、シニア・シルバーク世代人材育成プロジェクトを推進します。

また、幸田町で安心して出産ができるように、産婦人科病院の誘致を引き続き働きかけていくとともに、産後をサポートする産後ケアの充実を図り、産後、デイサービス拠点の整備を進めてまいります。藤田保健衛生大学岡崎医療センターが2020年4月に開院することを契機に、大学病院と地域医療・福祉の連携事業を推進してまいります。

手話言語条例策定に関しましては、関係団体と協議、研究を進め、実効性のある条例となるよう早期に取り組んでまいります。

現在、国を挙げて取り組みが求められています。医療、介護、予防、住まい、生活支援が地域で一体的に提供される地



域包括ケアシステムを関係機関と協力して構築してまいります。

広域行政の推進

近隣の市町との友好な関係を保ちながら、新たな広域行政の可能性、既存の事業の発展または改善、地域の課題に対する対策など、友好的な広域行政による、持続可能な町づくりに努めます。

また、姉妹都市島原市との友好交流を促進してまいります。引き続き、島原市や友好交流推進委員会と協議を重ねながら、文化、産業、観光、教育、防災および福祉など幅広い分野における「人」の交流を展開してまいります。

そして、固定概念にとらわれない斬新なアイデアを生み出し、全国から有能な人材を発掘し、幸田町職員のダイバーシティ化を目指します。

子ども達が元気な町

子どもの育つ町、子どもの交流と居場所づくりに向け、豊坂ほっと館に続く児童館の建設を推進します。また、母親の社会進出をサポートし、保育園に民間活力を導入しながら、安心して出産から子育てまでできるような支援をしてまいります。さらに、現教育相談室の機能を強化拡充することにより、親と子と先生の悩み事を今以上にサポートするための教育相談センターの新設を目指します。

さらなる子育て環境の整備を進めていく中で、子ども医療制度がどうあるべきかを再検討し、さらなる制度充実を図ってまいります。

また、将来的にはアレルギー対応食の

供給も見据えた、給食センターの増築を実施します。そして、全小中学校へのエアコンの設置・トイレの洋式化を計画的に推進してまいります。

産業が活気づく町

工業団地開発については、国道23号名豊道路、248号などの地の利を活かし、愛知県企業庁による開発や民間開発を積極的に推進するとともに、新たな開発候補地の選定にも取り組んでまいります。

また、大学連携や幸田ものづくり研究センターで実施する事業を活用し、自動運転やIoTなどの最新技術を有する新産業の創生を図ります。

遊休農地や休耕地の有効活用、「5・10の市」で農業や商業の再起動を支援し、商品開発プロジェクトなど地域力活性化のための新事業を展開してまいります。

都市基盤整備の推進

町内3駅、幸田駅、三ヶ根駅、相見駅、それぞれの周辺環境に合わせた地域住民主導型のソフト事業の推進をします。

特に、三ヶ根駅につきましては、歴史や地域資源を活用して魅力ある空間を形成するとともに、駅へのエレベーター設置や乗降客数の増加、地域の活性化につながる取り組みにつきまして、深溝学区まちづくり研究会と一緒に検討してまいります。

人口5万人を目指すために、新市街地整備として土地区画整理事業を始めとする面整備事業の検討を推進します。

土地利用計画においては、具体的な課題となる基盤整備手法やまちづくり熟度

により、区域や規模あるいは開発箇所を見直しが必要な地区が生じているため、各種マスタープランや農業振興地域整備計画において、個別修正や中間見直しなどを進めてまいります。

また、学校、公民館などの公共建築物と道路や水道などのインフラ資産の多くで今後の老朽化が懸念されます。これら公共施設などの総合的・長期的な整備計画を策定し、長寿命化や改修を計画的に実施します。

本町の治水対策として、重要な菱池遊水地計画の早期実現に努めるとともに、



▲2008年8月豪雨によって浸水した菱池地内。被害を防ぐために治水対策が必要である。

将来利用構想を作成し、こうした風揚げまつり会場を始め、多くの人に親しまれる施設整備を行い、東海道本線や新幹線の乗客に関心を持っていただけるようなアピール効果を目指します。

自然と共生、豊かな環境

豊かな自然環境を維持するため、循環型社会を目指します。また、里山、鎮守の森、ホタル、カワセミ、自然豊かな緑地などを保全し、快適で暮らしやすく、環境にやさしいまちづくりを目指します。また、皆さまのご努力によるごみの分別、減量が進んでいることに伴い、ごみ袋の値下げを行います。

文化の香りたたよう町

今日まで先人から受け継いだ貴重な文化財の保護に努めます。特に国史跡島原

藩主深溝松平家墓所保存整備事業を推進してまいります。

また、幸田町の風土、歴史や文化などを題材としたアニメを制作・活用し、視覚に訴え、親しみにあふれる、ふるさと町おこしを町民の皆さまに提案させていただきます。そのため、幸田町とゆかりのあるアニメ監督や関心の高い人の力をお借りしてまいります。

豊坂ほつと館において、新たな文化的な活用を目指すとともに、幸田町の代表的な癒やしの空間となった幸田中央公園に、多世代の町民の皆さまが文化交流できる、お洒落なカフェの設置を検討いたします。

また、町立図書館では、働いている人を意識したサービスの提供、活用方法を検討いたします。

行政改革と住民サービス向上

庁舎1階総合窓口の二期工事を実施し住民サービスの向上に努めます。

新たに役場庁舎内働き方改革を行い、管理職がそれぞれ実績を生かした目標を持ち職員とともに、おもてなし、現場力創造と工夫によるモチベーションを上げ行政サービスの向上と拡大を目指します。

各種委員会や幹部職員などにおいて、女性の登用を積極的に行い、民間企業とともに女性活躍を推進します。

政策の提案や業務の改善など、その立案者が充実感を得られる人事評価ができるような業績目標を設定する仕組みをつくり、個人および職場のモチベーション向上につなげます。

職員には、仕事と育児・介護の両立支

援について制度を周知し、非正規職員には、新たな制度である会計年度任用職員に向け、同一労働同一賃金を踏まえた条例などを定め、それぞれの職員がともに働きやすい職場環境を整えるよう努め、時間外勤務の見直しとともに、働き方の意識改革に努めます。

総合体育館の建設推進については、ハッピーネス・ヒル・幸田における現借地の明け渡しに伴い、一層の不足が生じる駐車場対策を含め、まずは用地の取得を始めとした事業手法も含めて多方面からの検討を行います。

以上、これらの取り組みを実現するため、国や県はもとより、隣接する市とも連携を密にしながら、行政改革の魅せる化を図り持続可能な町政運営を進めてまいります。幸田町は愛すべき素晴らしい町です。町民の皆さまとともに、「出会いのある身近なまちづくり」を推進するために、全力で当たる所存でありますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

成瀬敦町長プロフィール

幸田町鷺田区在住
昭和31年12月生まれ（61歳）
昭和54年3月 立命館大学経済学部卒業
昭和55年4月 幸田町役場 就職
平成19年4月 総務部総務防災課長
平成22年9月 幸田町副町長就任
平成30年5月 幸田町長初当選

問合せ 人事秘書課人事秘書グループ

☎ 62-1111（内線321）
FAX 63-5139